

# TONEYAMA



大阪府立刀根山高等学校 〒560-0045 豊中市刀根山6-9-1 TEL:06-6843-3781 FAX:06-6843-1716 H27-No.8

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業

## 「災害ボランティア活動の推進・支援事業」に選定される！



刀根山高校の東北ボランティアの取り組みが、平成27年度「災害ボランティア活動の推進・支援事業」として大阪府教育委員会より選定され、8月5日～8日まで、生徒5名(3年2名、2年3名)と先生1名が岩手県と宮城県で以下のような活動を行いました。



### 8/5午後 釜石市の仮設住民の方々と意見交流

5日朝に伊丹空港より花巻空港へ向け出発。そして列車で釜石へ。午後、釜石市社会福祉協議会スタッフの案内で山手にある小規模な仮設住宅を訪問しました。

住民の方々と草抜きをしながらお話しをという予定でしたが、記録的な猛暑のため、住民の方の判断で中止。仮設住宅内で被災された方々の現状について伺いました。



### 8/6午前 陸前高田市役所と仮設図書館を訪問

プレハブの仮設市庁舎市長室で戸羽市長から復興の現状と防災の心構え等について説明をいただきました。



次に仮設図書館では、図書館周囲の雑草除去や掃除のお手伝いをした後、仮設図書館の設置までの経緯について説明を受けました。



### 8/6午後 陸前高田の被災現場と「奇跡の一本松」見学



午後は仮設の商店街で昼食。その後、陸前高田の市街地を見渡せるホテルのある高台や今年完成したばかりの復興集合住宅に立ち寄り、巨大ベルトコンベアが目立つ地盤のかさ上げ工事の現場を通して「奇跡の一本松」と被災した道の駅建物を見学しました。釜石へ移動中の車窓からは各所で大規模な復興工事が進められている状況が見られました。



看板の上まで津波が襲った



この部分まで津波が...



## 8/7午前 岩手県立大槌高校を訪問

大槌高校生徒会の被災から現在に至る取り組みの紹介がありました。

学校周辺の被災状況と復興工場の現場を見学後、高校生同士の交流の時間をもちました。



## 8/7午後 大槌町役場を訪問



大槌町の郊外に建設された復興住宅

役場内で箕面市より派遣されている職員の方より被災状況と復興の現況をうかがう。その後、壊滅した大槌市街地を見渡せる高台で復興工場の状況の説明を受けた後、各所に建設されている復興住宅や仮設の学校・幼稚園などを見学。

## 8/8午前 宮城県名取市ゆりあげ地区を訪問

日和山という人工の小山（標高10m程度）周辺に慰霊施設が設置され、津波の被災された語り部の方より被災の説明を受けました。津波で1階が浸かり、廃校となった中学校にも入り、生々しい当時の状況を聞き、亡くなった中学生達の慰霊碑前では生徒達も涙ぐんでいました。



## 8/8午後 仙台市内青葉城址を見学

伊達政宗が自然地形を利用して築城した青葉城址に上がり、古代からの津波被害を避けて海から遠く離れた広瀬川の河岸段丘上に城下町を築いた伊達政宗の防災へ備える意識などに思いをはせながら、遠く閑上地区の方向を遠望しました。



### 「東北震災ボランティア及び防災研修旅行」

初日に釜石市に行き、仮設住宅がまだ多くあることに驚きました(仮設の中はクーラーの効きがとても悪く蒸し暑かった)。

陸前高田市では、一帯が盛り土の工事現場で、建物らしいものが全くありませんでした。仮設の市庁舎で戸田市長から貴重なお話を色々していただきましたが、「後世に語り継いでいくことの大切さ」から防災メモリアル公園の必要性を少しは、理解できました。

最後に訪れた宮城県名取市の閑上地区では、復興工場のダンプが頻繁に走っていましたが、草むらになった住宅後をよく見ると、フライパンなどの生活用品がまだ残されていたのが、印象的でした。(高塚 基和)

この4日間で私たちは、飛行機、バス、電車、JR、新幹線を乗り継いで東北のボランティアをしました。車窓から見える釜石市や大槌町、陸前高田市、閑上浜の風景は、まだ復興が終わっていないということをセツに表していました。

4年経って、中学2年生だった私と同じ年の人たちは、高校3年生になり、また陸前高田市のベルトコンベアは仕事を終えました。新しい町ができていく、ということは、彼らの街が本当になくなってしまおうということです。

これから私たちが被災地のためにできることは、「被災地の経験を生かすこと」だと多くの方が、おっしゃっていました。今、私たちはもう一度被災地を見、心を傾けるべき時です。

(中岡 みふね)